

12. 皮膚の疾患

文献

岩元英輔. 慢性期仙骨部褥瘡への鍼通電療法の有用性. *日本褥瘡学会誌* 2014; 16(2): 129-134. 医中誌 Web ID: 2014353476

1. 目的

慢性期の仙骨部褥瘡に対する鍼通電療法の有効性評価

2. 研究デザイン

準ランダム化比較試験 (封筒法) (quasi RCT-envelope)

3. セッティング

三州会大勝病院、鹿児島、日本

4. 参加者

発生から2週間経過した真皮損傷以上の仙骨部褥瘡を有する入院患者 46名

5. 介入

Arm 1: 対照群 24名 (男性 13名、女性 11名、平均年齢 78.0±10.7歳)。通常治療・ケアのみ行った。ドレッシング材による保護、湿潤環境保持、看護ケア、薬物療法など。

Arm 2: EA群 22名 (男性 9名、女性 13名、平均年齢 77.0±10.8歳)。通常ケアと鍼通電 (Electroacupuncture: EA)を併用。0.2×48mm のステンレス製ディスポーザブル鍼を用いて、創部周囲の正常皮膚部位 (0.5-1.0cm 程度離れた部位) や大殿筋腹上に 10-30mm の深さで刺入し、双極性パルス波で 3Hz、15 分間通電。

6. 主なアウトカム評価項目

DESIGN-R の深さをのぞく 6 項目の総点、創サイズ。

7. 主な結果

DESIGN-R 総点における 2 群比較によると、群と時間の交互作用が有意であり、EA 群では有意に減少が促進されていた ($P<0.021$)。さらに、4 週後 ($P<0.039$)と 6 週後 ($P<0.008$)に対照群にくらべ EA 群に有意な低値を認めた。創サイズにおける 2 群比較によると、群と時間の交互作用が有意であり、EA 群では有意に減少が促進されていた ($P<0.047$)。また、4 週後 ($P<0.074$)と 6 週後 ($P<0.052$)に対照群にくらべ EA 群が低値ではあるが有意差は認められなかった。

8. 結論

通常治療と鍼通電の併用は褥瘡の治癒を促進させる。

9. 鍼灸医学的言及

褥瘡への局所鍼通電刺激による血流量増加について言及している。

10. 論文中の安全性評価

抜鍼後の微小出血 3 例。このほかに有害事象は報告されなかった。

11. Abstractor のコメント

同著者の JA1316 (他誌原著論文) と比較すると、研究デザイン、被験者数は異なるものの、年齢、身長、体重、一部の血液検査結果などが、平均値と SD が小数点以下まで一致している。さらに、引用文献としても明示されていない。これらの疑問点が解消されれば、エビデンスとして認めることができる。

12. Abstractor and date

保坂政嘉 2016.11.19